

エディトリアル

東京ベイ・浦安市川医療センター 副管理者 木下順二

COVID-19のパンデミックは社会全体に大きな影響を及ぼした。3密回避で対面行事の制限が続く中、ビデオ会議にとどまらずさまざまなオンラインツールの活用によりその制限を克服する取り組みも急速に盛んになった。

医療専門職の教育・研修の現場や、診療現場も例外ではなく、人を対象とした業務にもかかわらず人との接触を回避しなければならない矛盾を、どのように克服するかにそれぞれ腐心してきたものと思う。編集委員会ではさまざまな現場・場面の紹介が提案されたが、その中から6篇の記事に絞り込んだ。

「Ⅰ. 教育研修でのオンラインツール活用」では、自治医科大学における医学生教育、さいたま看護専門学校における看護学生教育、東京ベイ・浦安市川医療センターにおける新人看護師研修の3場面についてご執筆いただいた。自治医科大学では2012年から部分導入していたLearning Management System (LMS)を本格活用しシステマチックな取り組みが行われた。さいたま看護専門学校では新入生のPCの普及率が低く、その中でZoomを用いたりモット授業の仕組みを短期間に構築した。東京ベイ・浦安市川医療センターではテレワークでの新人教育という困難なタスクに直面したが、ちょうど全社的に契約していたMicrosoft Teamsをフルに活用して解決していく様子に感服した。

「Ⅱ. 臨床現場でのオンラインツール活用」では、日光市民病院の感染症病床における活用と、D to Dコンサルテーションツール Antaa QAをご紹介いただいた。日光市民病院は100床の小さなケアミックス病院であるが、最初期からクルーズ船乗客の感染者を受け入れることになり、限られた人員と設備の中でケアの安全と質を向上するための手段の一つとして、ビデオ通話システムなどを導入した。Antaa QAは医師専用の実名制オンラインコンサルテーションの仕組みで、ボランティアベース・非1対1であることが特徴である。お互いに気軽に相談し合え、その知識と経験を他の医師とも共有できる。へき地・離島勤務においても大きな支えとなりうるサービスである。

「Ⅲ. 地域医療振興協会での総合的活用」では、当協会でご契約したMicrosoft 365の各サービスを連携利用した実例を紹介した。クラウドサービスや、Webアプリケーションへの急速な遷移についていくのはなかなか大変だが、できる事が増えることはとても楽しい。

新しいツールを活用するには、アイデアこそが重要だと思う。今回の特集が読者にとって新発想のヒントになれば幸いである。